

教科(科目)	地理歴史(地理総合)	単位数	2単位	学年	2学年
使用教科書	帝国書院『高等学校新地理総合』『標準高等地図』				
副教材等	帝国書院『地理資料世界の諸地域NOW2025』、帝国書院『高等学校新地理総合ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ①基礎学力の定着と向上により、学ぶ意義を意識して学習する力を育成します。 ②規律ある学校生活を送る中で、責任ある行動をとる姿勢を育成します。 ③自己有用感を高めて、主体的に進路選択をする姿勢を育成する。 ④仲間と協力しながら、積極的に問題を解決する姿勢を育成します。 ⑤地域の特色やその魅力を理解し、地域の発展に貢献する心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ①少人数授業での協働的な学びやICTの活用により、個を伸ばす授業を展開します。 ②生徒との対話を重視し、保護者・外部機関等と協力しながら生徒を支援します。 ③生徒の主体的な進路選択につながる体験を取り入れた学習を行います。 ④生徒一人ひとりが自己の役割を自覚し、自己に対する肯定的な評価に気付くことできる行事運営を行います。 ⑤地域の人的・物的資源を取り入れ、地域と連携したキャリア教育を実施します。

2 学習目標

世界で起こっている様々な事象を理解するための基礎となる、自然環境や産業などの系統地理を中心に学習することで、社会的事象の地理的な見方・考え方の習得を図る。地図や統計資料に触れることで、読解力を身に付ける。基礎的な知識の定着をはかり、その過程で自分なりの学習方法を確立する。 (1)世界の生活文化の多様性や地球的課題を理解するとともに地理に関する様々な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)地理に関わる事象や概念などを活用して考察、構想する力や構想したことを効果的に説明、議論する力を養う。 (3)地理に関わる事象の諸課題を主体的に追究、解決する態度を養うとともに、日本と世界の多様な生活文化を尊重する大切さを自覚する。

3 指導の重点

・系統地理に関する基礎的な知識の定着を目指します。 ・地理情報を用いて地理的事象を分析できるようになることを目指します。 ・系統地理の知識・理解を土台にして、地誌分野の学習の理解を深められるようになることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的な見方・考え方を身に付け、それらの見方・考え方を活用して地理的事象の因果関係について理解しようとし、地理に関する様々な情報を調べまとめる技能を身に付けている。	地理的な見方・考え方をもとに、世の中の事象について多面的に考えることができ、それらを効果的に説明、議論できている。	地理に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの自覚を深めようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ 定期考査 ・ レポート などから、評価します。	・ 定期考査 ・ レポート などから、評価します。	・ 授業における取組(板書等含む)、発表や対話的活動の取組 ・ 課題(ワークノート)などの提出物の取組 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1部 地図でとらえる現代世界	第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 2節 地球の役割と種類	・緯度・経度の基本的なしくみ、緯度の違い、時差のしくみ、時差が生活に与える影響について理解している。 ・球体の地球と平面の地図、さまざまな地図投影法(図法)、身の回りの主題図やさまざまな一般図の表現方法や用途について理解・考察し、表現している。 ・統計地図の種類、統計地図の比較と使い分け、地理情報システム(GIS)について理解しており、多面的・多角的に考察し、表現している。	10	・定期考査 ・レポート ・ワークノート ・授業における取組 ・発表や対話的活動の取組
5		第2章 結びつきを深める現代社会 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界	・国境の種類、国家の領域、国家の主権、日本の領土問題について理解、考察し、表現している。 ・国際関係と紛争の変化、国連が果たす役割、経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて理解、考察し、表現している。		
		定期考査		1	
6	第2部 国際理解と国際協力	第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活	・河川、海岸、氷河地形と生活の関わりについて理解、考察し、表現しようとしている。 ・気候が生活に与える影響、気温のしくみと分布の特徴、降水のしくみと分布の特徴について理解、考察し、表現しようとしている。	12	・定期考査 ・レポート ・ワークノート ・授業における取組 ・発表や対話的活動の取組
		定期考査		1	
7		3節 世界の言語・宗教と人々の生活 4節 歴史的背景と人々の生活 5節 世界の産業と人々の生活	・言語と民族の関わり、公用語、宗教と人々の生活への影響について理解、考察し、表現しようとしている。 ・生活文化に影響した歴史的背景、冷戦時代の体制が生活に与える影響について理解、考察し、表現しようとしている。 ・人々の工夫と農業・工業・産業の発展、農業の発展と生産性、農業の近代化とその課題について理解、考察し、表現しようとしている。	12	・定期考査 ・レポート ・ワークノート ・授業における取組 ・発表や対話的活動の取組
8・9		定期考査		1	
10		5節 世界の産業と人々の生活 第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題	・環境、資源・エネルギー、人口、食料、都市・居住など、地球環境問題の種類、地球環境問題の背景について理解、考察し、表現しようとしている。	5	・定期考査 ・レポート ・ワークノート ・授業における取組 ・発表や対話的活動の取組

11	第2部 国際理解と国際協力	2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題	・環境、資源・エネルギー、人口、食料、都市・居住など、地球環境問題の種類、地球環境問題の背景について理解、考察し、表現しようとしている。	5	・定期考査 ・レポート ・ワークノート ・授業における取組 ・発表や対話的活動の取組
12		定期考査		1	
	地域づくりと持続可能なまち	5節 食糧問題 6節 都市・居住問題	・環境、資源・エネルギー、人口、食料、都市・居住など、地球環境問題の種類、地球環境問題の背景について理解、考察し、表現しようとしている。	3	・定期考査 ・レポート ・ワークノート ・授業における取組 ・発表や対話的活動の取組
1		第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え	・プレートが重なり合う日本列島、日本列島の背骨をなす山地、日本の河川と沖積平野について理解、考察し、表現しようとしている。 ・地震の種類と特徴・地震災害、火山の分布・恵み・火山災害、気象災害について理解、考察し、表現しようとしている。 ・災害の被害を軽減するための取り組み、防災情報の活用、巨大地震への備えについて理解、考察し、表現しようとしている。	18	・定期考査 ・レポート ・ワークノート ・授業における取組 ・発表や対話的活動の取組
2・3		第2章 生活圏の調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と地域の展望	・地理的な課題の解決に向けての探究、地域調査の「問い」の設定について理解、考察し、表現しようとしている。		
		定期考査		1	

計70時間(50分授業)

7 課題・提出物等

- ・授業内容の理解の度合い、取組を評価する材料としてワークノートを提出してもらいます。
- ・レポートの提出を求めることがあります。

8 担当者からの一言

地理では、基本的な知識の定着とともに、地理的事象の因果関係について考察することで分析する力・考察する力を養うことを目指します。地理的事象の背景にある要因や地理的事象による影響について興味・関心を持つように心がけましょう。
(担当:伊藤 司)

令和7年度シラバス(地理歴史)

学番39 新潟県立正徳館高等学校

教科(科目)	地理歴史(歴史総合)	単位数	2単位	学年	2学年
使用教科書	山川出版社『わたしたちの歴史 日本から世界へ』				
副教材等	浜島書店『新詳歴史総合』、山川出版社『わたしたちの歴史 日本から世界へノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ①基礎学力の定着と向上により、学ぶ意義を意識して学習する力を育成します。 ②規律ある学校生活を送る中で、責任ある行動をとる姿勢を育成します。 ③自己有用感を高めて、主体的に進路選択をする姿勢を育成する。 ④仲間と協力しながら、積極的に問題を解決する姿勢を育成します。 ⑤地域の特色やその魅力を理解し、地域の発展に貢献する心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ①少人数授業での協働的な学びやICTの活用により、個を伸ばす授業を展開します。 ②生徒との対話を重視し、保護者・外部機関等と協力しながら生徒を支援します。 ③生徒の主体的な進路選択につながる体験を取り入れた学習を行います。 ④生徒一人ひとりが自己の役割を自覚し、自己に対する肯定的な評価に気付くことのできる行事運営を行います。 ⑤地域の人的・物的資源を取り入れ、地域と連携したキャリア教育を実施します。

2 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。 (1)世界とその中の日本を広く総合的に捉え、近現代の歴史を理解するとともに諸資料を調べまとめる技能を身に付ける。 (2)近現代の歴史を概念などを活用して考察したり、諸課題の解決を構想したり、またそれを効果的に説明する力を養う。 (3)課題を主体的に追究、解決する態度を養うとともに我が国や他国の歴史・文化を尊重する大切さを自覚する。
--

3 指導の重点

・歴史上の基本的な知識や概念、理論の習得を目指します。 ・歴史的思考力をつちかい、グローバル社会での日本と世界のありようを考えることを目指します。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するようにしている。技能:諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明する力を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史とともに他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ 定期考査 ・ レポート などから、評価します。	・ 定期考査 ・ レポート などから、評価します。	・ 授業における取組(板書等含む)、発表や対話的活動の取組 ・ 課題(ワークノート)などの提出物の取組 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	歴史の扉	歴史の扉	・身近な事柄が時間的な推移や空間的な結びつきのなかで歴史と結びつきを持っていることを理解する。 ・史料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。	3	・定期考査 ・レポート ・授業における取組
		近代化への問い	・交通・貿易・産業に関する資料を基に問いを立て学習の見通しを持つ。 ・権利意識と政治参加・国民の義務や学校教育、家族、移民に関する資料を基に問いを立て学習の見通しを持つ。	2	・定期考査 ・レポート ・授業における取組
	第1部 近代化と私たち	1 18世紀の世界とアジア 考えてみよう！琉球と蝦夷地 2 産業革命 3 アヘン戦争と日本 4 日本の開国 考えてみよう！江戸時代	・18世紀のアジアにおける経済や文化の発達と同時代のヨーロッパ諸国の対外進出との関係について考察する。 ・江戸時代の特徴を政治制度や外交・社会など多角的視点から理解する。開国や通商の諸問題について考察し、理解する。	5	・定期考査 ・レポート ・ワークノート ・授業における取組 ・発表や対話的活動の取組
		定期考査		1	
		5 日本開国期の国際情勢 6 開国後の日本社会 7 市民革命と国民統合 考えてみよう！国民国家と多民族国家 8 明治維新 9 富国強兵と文明開化 10 日本の明治初期の外交 11 大日本帝国憲法の制定 12 日本の産業革命と日清戦争 13 帝国主義 14 日露戦争と韓国併合 いまの私たちにつながる課題	・開港・開国が当時の社会にどのような影響を与えたのかを考察し、理解する。 ・江戸幕府の滅亡から明治政府成立の過程と明治政府の進めた富国強兵の具体的な内容を理解する。 ・欧米の産業技術の導入が日本の文化や生活に与えた影響について考察し、理解する。 ・明治初期の外交問題について理解する。 ・大日本帝国憲法の制定過程と特徴・内容を理解する。 ・日本の産業革命と帝国主義の関係及び世界の分割と列強の動きを考察し、理解する。 ・日清戦争と韓国併合に至る過程を理解する。	12	・定期考査 ・レポート ・ワークノート ・授業における取組 ・発表や対話的活動の取組
		定期考査		1	
		第2部	国際秩序の変化や大衆化への問い	・アメリカとソ連の台頭、第一次世界大戦後の植民地の独立に関する資料を基に問いを立てて、学習の見通しを持つ。	2
1 大衆運動の芽ばえ 2 第一次世界大戦 3 第一次世界大戦と日本 4 ロシア革命とその影響	・日露戦争後の日本の①東アジア進出と列強の反応、②世界的な大衆運動について考察し、理解する。 ・第一次世界大戦の背景と経過、その性格について、考察し、理解する。 ・ロシア革命の原因と経過、世界に与えた影響について考察し、理解する。		4	・定期考査 ・レポート ・ワークノート ・授業における取組 ・発表や対話的活動の取組	

8・9	第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち	5 社会運動の広がり 6 国際協調 7 アジアの民族運動 8 大量生産・大量消費社会 考えてみよう！大衆文化としてのスポーツ、野球 考えてみよう！大衆文化としての映画 9 世界恐慌	・ヴェルサイユ体制・ワシントン体制の特徴を理解する。また、ドイツや世界、アジア諸国の民族運動に与えた影響について理解する。 ・戦後のアメリカ大量生産・大量消費社会を理解する。 ・世界恐慌の原因と影響を考察し、理解する。	7	・定期考査 ・レポート ・ワークノート ・授業における取組 ・発表や対話的活動の取組
		定期考査		1	
10		10 独裁勢力の台頭 11 日本のアジア侵出 12 第二次世界大戦 13 第二次世界大戦と日本 14 第二次世界の終結 15 戦後国際秩序 16 冷戦の始まり 17 日本の戦後改革と日本国憲法 18 日本の独立 いまの私たちにつながる課題	・ヨーロッパでファシズム体制が成立した背景とその特徴について考察し、理解する。 ・日本での軍部の台頭した背景とその影響を考察する。 ・第二次世界大戦、アジア太平洋戦争の起きた原因と経過、世界の動向を考察し、理解する。 ・冷戦開始の背景と東西陣営の動向について考察し、理解する。 ・GHQによる占領政策の特徴を理解するとともに戦後改革の目的と成果を考察し、理解する。 ・日本国憲法の制定過程と特徴を理解する。 ・サンフランシスコ平和条約による日本の独立とその後の問題点について考察し、理解する。	10	・定期考査 ・レポート ・ワークノート ・授業における取組 ・発表や対話的活動の取組
11		定期考査		1	
12	第3部 グローバル化と私たち	グローバル化への問い	・冷戦と国際関係に関する資料を基に問いを立てて、学習の見通しを持つ。 ・人と資本の移動、食料と人口、資源とエネルギー、感染症、多様な人びとの共存に関する資料を基に問いを立てて、学習の見通しをもつ。	2	・定期考査 ・レポート ・授業における取組
		1 第三世界の登場 2 冷戦の固定化と「雪どけ」 3 冷戦の展開 4 55年体制と安保闘争 5 高度経済成長の光と影 6 ベトナム戦争とアメリカ 7 経済構造の変化 8 日本の経済大国化 考えてみよう！日本の政府開発援助 9 アジアの経済成長 10 社会主義の停滞と新自由主義 11 冷戦の終結 12 冷戦後の地域紛争 考えてみよう！国連平和維持活動 13 地域統合 14 現代世界の諸課題 15 日本の初課題 いまの私たちにつながる課題	・アジア・アフリカ諸国の独立の過程と第三世界として連帯した背景について考察し、理解する。 ・冷戦下の核軍拡競争と「雪どけ」が世界に与えた影響について考察する。 ・日本の高度経済成長の過程を理解する。 ・ベトナム戦争について考察し、理解する。 ・石油危機の原因と影響を考察し、理解する。 ・日本の経済大国化と貿易摩擦、バブル景気に至る過程と崩壊後の経済の低迷について理解する。 ・NIESやASEANの概要を理解する。 ・社会主義が停滞した原因について考察する。 ・ペレストロイカと東ヨーロッパ諸国の民主化運動を考察し、理解する。 ・冷戦終結後の世界で頻発した地域紛争を考察し、理解する。 ・国連平和維持活動の経緯と活動、問題点を理解する。 ・地域統合の特徴について考察し、理解する。 ・現代世界の諸課題と解決に向けての方策について考察し、理解する。 ・現在の日本が抱える諸課題を知り、問題解決の方法を考える。	18	・定期考査 ・レポート ・ワークノート ・授業における取組 ・発表や対話的活動の取組
1		定期考査		1	
2・3		定期考査		1	

計70時間(50分授業)

7 課題・提出物等

- ・授業内容の理解の度合い、取組を評価する材料としてワークノートを提出してもらいます。
- ・レポートの提出を求めることがあります。

8 担当者からの一言

「歴史は暗記科目」と言われがちですが、歴史的事柄には必ず原因(背景)と結果があり、特にその原因をきちんと理解することが重要です。その上で正しい知識のもと、歴史的思考力をつちかい、広い視野でこの国と世界を展望してください。
(担当:家塚 正俊)

教科(科目)	理科（化学基礎）	単位数	2 単位	学年(コース)	2 学年
使用教科書	新編 化学基礎（東京書籍）				
副教材等	新課程 ニューサポート 新編化学基礎（東京書籍）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ①基礎学力の定着と向上により、学ぶ意義を意識して学習する力を育成します。 ②規律ある学校生活を送る中で、責任ある行動をとる姿勢を育成します。 ③自己有用感を高めて、主体的に進路選択をする姿勢を育成します。 ④仲間と協力しながら、積極的に問題を解決する姿勢を育成します。 ⑤地域の特色やその魅力を理解し、地域の発展に貢献する心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ①少人数授業での協働的な学びやICTの活用により、個を伸ばす授業を展開します。 ②生徒との対話を重視し、保護者・外部機関等と協力しながら生徒を支援します。 ③世との主体的な進路選択につながる体験を取り入れた学習を行います。 ④生徒一人ひとりが自己の役割を自覚し、自己に対する肯定的な評価に気付くことができる行事運営を行います。 ⑤地域の人的・物的資源を取り入れ、地域と連携したキャリア教育を実施します。

2 学習目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、学的に探究する力を養う。
- (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

3 指導の重点

- ・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることを目指します。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養います。
- ・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養います。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	・定期考査の分析 ・観察、実験、グラフでの表現の観察 ・レポート、副教材や演習プリント等の提出物の内容・感想の確認 などから評価します。	・定期考査の分析 ・レポート、副教材や演習プリント等の提出物の内容・感想の確認 ・授業中の発言、発表などの観察 などから評価します。	・授業中の態度や取組の観察 ・レポート、副教材や演習プリント等の提出物の内容・感想の確認 ・授業中の発言、発表などの観察 などから評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時間	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4・5	1編 科学と人間生活 1章 化学とは何か 2章 物質の成分と構成元素	10	・教科書 ・副教材 ・演習プリント	・物質の成分 ・物質の構成元素 ・物質の三態	a b c	・1学期中間考査（考査の分析） ・提出物（記述の点検） ・授業の取組（記述の確認） ・授業の取組（行動の確認）
5・6・7	2編 物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表 2章 化学結合	14		・物質の構造 ・電子配置と周期表 ・イオンとイオン結合 ・分子と共有結合 ・金属結合と金属結合 ・化学結合と物質の分類	a b c	・1学期期末考査（考査の分析） ・提出物（記述の点検） ・授業の取組（記述の確認） ・授業の取組（行動の確認）
7・8・9	3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式	15		・原子量・分子量・式量 ・物質質量 ・溶液の濃度 ・化学反応式の表し方 ・化学反応式の表す量的関係	a b c	・2学期中間考査（考査の分析） ・提出物（記述の点検） ・授業の取組（記述の確認） ・授業の取組（行動の確認）
10・11・12	2章 酸と塩基	15		・酸と塩基 ・水素イオン濃度と pH ・中和反応と塩の生成 ・中和滴定	a b c	・2学期期末考査（考査の分析） ・提出物（記述の点検） ・授業の取組（記述の確認） ・授業の取組（行動の確認）

1	3章 酸化還元反応	16		・酸化と還元 ・酸化剤と還元剤 ・金属の酸化還元反応 ・酸化還元反応の応用	a	・3学期学年末考査 (考査の分析)
・					b	・提出物 (記述の点検)
2	終章 化学が拓く世界				c	・授業の取組 (記述の確認)
・						・授業の取組 (行動の確認)
3						

計70時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・各考査終了後、副教材・演習プリントの提出があります。
- ・実習を行った際には、レポート提出があります。

8 担当者からの一言

テストが苦手とあきらめることなく何度も授業プリントや副教材・演習プリントを繰り返しやれば、化学基礎が理解できるようになります。また、教科書の単語を覚えるだけでなく、周りの現象もよく見て下さい。そこには教科書に載っていたことが現れていることが多くあります。新しい発見に感動する心を忘れなければきっと理科が好きになるはずです。

(担当：山家 真奈美)

教科(科目)	保健体育（体育）	単位数	2 単位	学年(コース)	2 学年
使用教科書	大修館書店『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店『現代高等保健体育ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ①基礎学力の定着と向上により、学ぶ意義を意識して学習する力を育成します。 ②規律ある学校生活を送る中で、責任ある行動をとる姿勢を育成します。 ③自己有用感を高めて、主体的に進路選択をする姿勢を育成します。 ④仲間と協力しながら、積極的に問題を解決する姿勢を育成します。 ⑤地域の特色やその魅力を理解し、地域の発展に貢献する心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ①少人数授業での協働的な学びやICTの活用により、個を伸ばす授業を展開します。 ②生徒との対話を重視し、保護者・外部機関等と協力しながら生徒を支援します。 ③世との主体的な進路選択につながる体験を取り入れた学習を行います。 ④生徒一人ひとりが自己の役割を自覚し、自己に対する肯定的な評価に気付くことができる行事運営を行います。 ⑤地域の人的・物的資源を取り入れ、地域と連携したキャリア教育を実施します。

2 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけようとする。
- (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

3 指導の重点

- ・授業前後の移動や着替えを早くし、チャイムスタートを目指します。
- ・頭髪を整えるとともに体操着や靴を正しく着用させ、規律正しくかつ安全に授業に参加する態度を育てます。
- ・大きな声で点呼や体操を行うことを目指します。（号令に合わせて体操、ストレッチができるようになることを目指します。）
- ・トレーニングを毎時間実施し、基礎体力の向上を目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。	・自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	- 各種目の技能テストや記録の計測 - ファイルやワークシート(提出や記入状況等)などから、評価します。	- 授業中の発言やグループ活動への取組の観察 - ファイルやワークシート(振り返りや提出状況等)などから、評価します。	- 授業中の発言やグループ活動への取組の観察 - ファイルやワークシート(振り返りや提出状況等)などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	授業時間	評価方法
4	オリエンテーション		・1年間の学習活動について理解する。	2	活動への取組
	集団行動	整列、移動、列の増減等	・集団行動がスムーズにできるようにする。		
	体づくり運動	体ほぐしの運動 体力を高める運動	・健康の保持増進や体力の向上を図る。自己の体力や生活に応じた課題を持ち、様々な運動を行う。	7	ワークシート 活動への取組
5	陸上競技	短距離走(100m・200m) 中距離走(800m・1500m)	・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を高める。	4	記録の計測 活動への取組 ワークシート
6	陸上競技	中距離走(800m・1500m) 跳躍(走り幅跳び) 投てき(砲丸投げ)	・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を高める。	4	記録の計測 活動への取組 ワークシート
7	球技(ゴール型)	バスケットボール	個人的技能(パス、ボールキープ、シュート)	2	技能テスト 活動への取組 ワークシート
	球技(ネット型)	卓球	個人的技能(サービス、各種ストローク) ・ゲームの基礎となる個人技能を身につける。		
	体育理論(運動・スポーツの学び方)	スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術	・技能と体力の関係について理解する。 ・技能や体力を高めるときに気をつけるべき点をあげることができる。 ・技能の型の違いやそれぞれの練習のしかたを理解する。 ・用具の改良やメディアの発達などによる技術や戦術、	2	評価問題 ワークシート

			ルールの変化を理解する。		
8 9	球技(ゴール型) 球技(ネット型)	バスケットボール 卓球	集団的技能(組織的な攻撃および守備) ・味方や相手の状況を見ながら状況に応じた攻撃や守備ができるようにする。 試合での攻撃と守備 ・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開することができるようにする。	8	技能テスト 活動への取組 ワークシート
10	陸上競技	長距離走	・自己に適したペースを維持して、長い距離を走り通し、タイムを短縮したり、競争したりできるようにする。	9	記録の計測 活動への取組 ワークシート
11	球技(ネット型)	バドミントン バレーボール	個人的技能(サービス、各種ストローク) ・ゲームの基礎となる個人的技能を身に付ける。 個人的技能(パス、レシーブ、トス、スパイク) ・安定したボール操作ができるようにする。	8	技能テスト 活動への取組 ワークシート
12	球技(ネット型)	バドミントン バレーボール	試合での攻撃と守備 ・状況に応じたラケット操作や安定した用具の操作と連携した動きによって、空間を作り出すなどの攻防を展開することができるようにする。 集団的技能(三段攻撃とその防御) ・空間を作り出すなどの連携した動きができるようにする。	4	技能テスト 活動への取組 ワークシート

	体育理論（運動・スポーツの学び方）	技能の上達過程と練習 効果的な動きのメカニズム	・技能がどのようなステップを経て上達するか理解する。 ・練習によって技能が上達すると、どのような特徴が見られるかをあげることができる。 ・体の動きはどのようなしくみで開始され、持続していくのかを理解する。 ・よい動きを支える調整力について理解する。	2	評価問題 ワークシート
1	球技（ゴール型） 球技（ネット型）	バスケットボール バレーボール 卓球 バドミントン	集団的技能（速攻、オフェンス、ディフェンス） 集団的技能（三段攻撃とその防御） 試合での攻撃と守備	8	技能テスト グループ活動への取組 ワークシート
2 3	球技（ゴール型） 球技（ネット型）	バスケットボール バレーボール 卓球 バドミントン	集団的技能（速攻、オフェンス、ディフェンス） 集団的技能（三段攻撃とその防御） 試合での攻撃と守備	8	技能テスト グループ活動への取組 ワークシート
	体育理論（運動・スポーツの学び方）	体力トレーニング 運動やスポーツでの安全の確保	・目的に応じたさまざまなトレーニングの方法を理解する。 ・筋力、持久力、調整力、柔軟性を高める具体的な方法をあげることができる。 ・スポーツ外傷とスポーツ障害の違いを理解する。 ・スポーツ活動中に起きる重大な事故をあげ、その発生原因と予防方法を理解する。	2	評価問題 ワークシート

計 70 時間（50 分授業）

7 課題・提出物等

- ・実施種目によって記録用紙等を提出する場合があります。
- ・各学期ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。

8 担当者からの一言

昨年と同様に体育は、単に「足が速い」とか「バスケットボールがうまい」など運動能力や技術の高さだけでは評価は高くなりません。欠席をせず、みんなと協力し、誰にでもできることを一生懸命授業に取り組むことが必要となります。また、「やらなければならないこと」は必ず最後までやってもらいます。妥協せず全力で取り組みましょう。体育の授業を通し、自分の限界に挑戦し、コミュニケーション能力を高め、人間力を高めてもらいたいと思います。なお、2年生では1年生で身につけた体力や技能がさらに向上できるよう、発展した内容を展開します。

（担当：平野 淳一、橋立 美貴）

教科(科目)	保健体育（保健）	単位数	1 単位	学年(コース)	2 学年
使用教科書	大修館書店『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店『現代高等保健体育ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ①基礎学力の定着と向上により、学ぶ意義を意識して学習する力を育成します。 ②規律ある学校生活を送る中で、責任ある行動をとる姿勢を育成します。 ③自己有用感を高めて、主体的に進路選択をする姿勢を育成します。 ④仲間と協力しながら、積極的に問題を解決する姿勢を育成します。 ⑤地域の特色やその魅力を理解し、地域の発展に貢献する心を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ①少人数授業での協働的な学びやICTの活用により、個を伸ばす授業を展開します。 ②生徒との対話を重視し、保護者・外部機関等と協力しながら生徒を支援します。 ③世との主体的な進路選択につながる体験を取り入れた学習を行います。 ④生徒一人ひとりが自己の役割を自覚し、自己に対する肯定的な評価に気付くことができる行事運営を行います。 ⑤地域の人的・物的資源を取り入れ、地域と連携したキャリア教育を実施します。

2 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につけるようにする。
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

3 指導の重点

- ・授業開始前に教科書、ノートを準備し、授業者の説明をしっかりと聞く態度を身につけることを目指します。
- ・板書をきちんとノートに写す態度を身につけることを目指します。
- ・保健用語の理解と読み書き取りの習得を目指します。
- ・現在及び将来の生活において、健康及び安全の課題に直面した場合に、的確な思考、判断に基づいて適切な意志決定を行い、行動選択できる能力の習得を目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	- 定期テスト - ファイルやワークシート(確認や提出状況等) などから、評価します。	- 授業中の発言やグループ活動への取組の観察 - ファイルやワークシート(確認や提出状況等) などから、評価します。	- 授業中の発言やグループ活動への取組の観察 - ファイルやワークシート(振り返りや提出状況等) などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	授業時間	評価方法
4	生涯を通じる健康	1. ライフステージと健康	- ライフステージと健康の関連について理解する。 - 各ライフステージで活用できる社会からの支援について理解する。	1	ファイルやワークシート (取組状況等)
		2. 思春期と健康	- 思春期における体の変化を女性と男性に分けて理解する。 - 思春期の心の発達にかかわって起こる問題について理解する。	1	活動への取組 (観察)
		3. 性意識と性行動の選択	- 性意識の男女差について理解する。 - 性情報が性行動の選択に影響を及ぼすことがあることを理解する。	1	
5	生涯を通じる健康	4. 妊娠・出産と健康	- 妊娠・出産の過程における健康課題について理解する。 - 妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスを理解する。	4	ファイルやワークシート (振り返り等)
		5. 避妊法と人工妊娠中絶	- 家族計画の意義と適切な避妊法について理解する。 - 人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について理解する。		
6	生涯を通じる健康	6. 結婚生活と健康	- 心身の発達と結婚生活の関係について理解する。 - 結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動を理解する。	4	ファイルやワークシート (取組状況等) 活動への取組

		7. 中高年期と健康	・加齢にともなう心身の変化について理解する。 ・高齢社会に必要な社会的な取り組みについて理解する。		(観察) ファイルやワークシート (振り返り等)
	学期末考査			1	評価問題 提出物の確認
7	生涯を通じる健康	8. 働くことと健康	・働くことの意義と健康とのかかわりについて理解する。 ・働き方や働く人の健康問題の変化について理解する。	2	ファイルやワークシート (取組状況等)
8 9	生涯を通じる健康	10. 労働災害と健康	・労働災害の種類とその原因について理解する。 ・労働災害を防止するために必要なことを理解する。	2	活動への取組 (観察) ファイルやワークシート (振り返り等)
10	生涯を通じる健康	11. 健康的な職業計画	・職場がおこなう健康に関する取り組みについて理解する。 ・余暇を積極的にとることの意義について理解する。	2	ファイルやワークシート (振り返り等)
11	健康を支える環境づくり	1. 大気汚染と健康	・大気汚染の原因と健康への影響について理解する。 ・大気にかかわる地球規模の健康問題について理解する。	4	ファイルやワークシート (取組状況等) 活動への取組 (観察) ファイルやワークシート (振り返り等)
	学期末考査	2. 水質汚濁、土壌汚染と健康	・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を理解する。 ・大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて理解する。		
12	健康を支える環境づくり	3. 環境と健康にかかわる対策	・環境汚染による健康被害を防ぐ方法について理解する。 ・産業廃棄物の処理について理解する。	6	ファイルやワークシート (取組状況等) 活動への取組

1	健康を支える環境づくり	4. ゴみの処理と上下水道の整備	・ごみの処理の現状やその課題について理解する。 ・上下水道のしくみと健康にかかわる課題を理解する。	1	(観察) ファイルやワークシート (振り返り等)
		5. 食品の安全性	・食品の安全性と健康とのかかわりについて理解する。 ・食品の安全性に関する今日的課題について理解する。		
		6. 食品衛生にかかわる活動	・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について理解する。 ・食品の安全性を確保するための個人の役割について理解する。		
	2 学年末考査			1	評価問題 提出物の確認
3	健康を支える環境づくり	7. 保健サービスとその活用	・保健行政の役割について例をあげて理解する。	1	
		8. 医療サービスとその活用	・保健サービスの活用について理解する。 ・わが国における医療保険のしくみについて理解する。 ・さまざまな医療機関の役割について理解する。	4	ファイルやワークシート (取組状況等) 活動への取組 (観察) ファイルやワークシート (振り返り等)
		9. 医薬品の制度とその活用	・医薬品の正しい使用法について理解する。 ・医薬品の安全性を守る取り組みについて理解する。		
		10. さまざまな保健活動や社会的対策	・国際機関・民間機関などの保健活動について理解する。 ・行政機関による社会的対策について理解する。		
		11. 健康にかんする環境づくりと社会参加	・健康の保持増進のための環境づくりについて理解する。 ・環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながること理解する。		

計 35 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・授業開始前に教科書、ノートを準備し、授業者の説明をしっかり聞く態度を身につけることを目指します。
- ・板書をきちんとノートに写す態度を身につけること、保健用語の理解と読み書き取りの習得を目指します。
- ・現在及び将来の生活において、健康及び安全の課題に直面した場合に、的確な思考、判断に基づいて適切な意志決定を行い、行動選択できる能力の習得を目指します。

8 担当者からの一言

保健ではこれまでの人生で一度は聞いたことがあったり、学んだりした事柄をより深く学習します。したがって、取り組みやすい科目とも言えます。また「知っていること」と「やれる・できること」は違います。特に、妊娠・出産・人工妊娠中絶と健康の関係を学び、正しい意志決定と行動選択がとれるようにしましょう。また、より理解を深めるために、事前に学習するページを読んでおく必要があります。

(担当：藤野 雅子)